

平成 28 年 8 月 23 日に文教福祉委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

● 新学校給食調理場について ●

～内容～

学校給食共同調理場の建て替えについて、現在の状況及び今後のスケジュールについて調査するもの。

～質疑～

問：直営で管理運営を行っていくとのことだが、将来的にはコストダウンできる民間へ委託するという計画はないのか。

答：当面は直営で管理運営を行っていく。民間委託等については、管理運営を行いながらの検討課題と捉えている。

問：見学スペースの整備は食育の推進のために必要である。見学後、食育の研修を行えるような会議室もあわせて整備するのか。

答：調理している過程を見学するスペースは整備したい。食育の研修を行うことができるスペース等は、プロポーザルの中で検討して進めていきたい。

● 生涯現役促進地域連携事業の採択について ●

～内容～

高齢者雇用のワンストップ窓口の設置について、生涯現役促進地域連携事業の採択を受け、10月の窓口開設、実施する事業内容等について調査するもの。

～質疑～

問：今年度は国の事業採択ということで半年間事業実施するが、来年度以降は市の予算で事業を継続するのか。このような事業は単発では意味がない。

答：委託事業は3年までで、平成 29、30 年度も採択されれば実施できる。基本的な根幹の部分を委託期間で作り上げていきたい。

問：ワンストップ窓口はどこに設置するのか。

答：社会福祉協議会に設置したいと考えている。

問：生涯現役促進地域連携事業の今後の主な事業として具体はあるか。

答：観光や食に視点を置いた女性限定の創業セミナー等の各種セミナーを開催し、セミナー受講後は、各種関係団体の研修等も活用しながら高齢者の雇用につなげていきたい。

● 常盤小学校プレハブ教室棟の増設について ●

～内容～

平成 29 年度以降、常盤小学校区の児童数の増加に伴い教室が不足することが予測されていることへの対応について調査するもの。

～質疑～

問：児童数と教室の不足数を推計しているが、マンション建設に伴う児童数の増加を見込まず推計しているのはなぜか。

答：マンション建設に伴う児童数の増加は予想困難なため、特別には見込んでいないが、プレハブ教室棟はパーティションで区切る使い方ができるようにするため、応急的な対応はできる。

問：児童数の増加が予測を超えた場合のことは考えないということか。

答：1 学年 4 クラスで予測している。1、2 年生の場合は 140 人までなら 4 クラスで対応できる。今年度の 1 年生は 129 人のため、今までの動向から 4 クラスで対応できると推測している。

問：プレハブ教室棟を増設後、算数教室棟で使用していた場所を放課後児童クラブが使用することのだが、現在の放課後児童クラブの場所とは離れている。指定管理者とは協議できているか。

答：運営委員や支援員には御理解をいただいている。

● 総社小学校改築に伴う発掘調査について ●

～内容～

総社小学校の改築に伴い実施された発掘調査の状況について調査するもの。

～質疑～

問：来年度の夏休み期間中に残りの半分を実施予定とのことだが、今年度の冬休みや春休みに実施はしないのか。

答：今回の調査に要した期間は、夏休みの期間をほぼ使用したことから、夏休み以外だと学校の授業に影響がでることから来年の夏休みに実施する予定にしている。

問：重要なものが発掘されたら、総社小学校の改築工事に影響が及ぶと思うが、その場合どのような計画となっているのか。

答：重要な国府であったら原状保存ということになるため、設計の見直しが必要になることから、早めにとということで今年から調査を開始した。

● 総社保育所の耐震診断結果について ●

～内容～

総社保育所の耐震診断結果及びその結果を受けて、今後の対応について調査するもの。

～質疑～

問：耐震補強工事が必要になるとのことだが、施設全体の老朽化も激しいこともある。今後の対応をいつまでに決定するのか。

答：こども園化を前提に考えると合併特例債を利用することになる。それであれば、今年度中に方向性を取りまとめる必要があると考えている。

● （仮称）常盤第2分館建設スケジュールの変更について ●

～内容～

（仮称）常盤第2分館の建設スケジュールの変更について調査するもの。

～質疑～

問：合併特例債の対象とするためにスケジュールを見直したということだが、当初の予定より半年早くなるということか。

答：用地購入の翌年には建築を始めなければならないという条件があることから、平成29年度中の建築着工に向けたスケジュールとする。

● 高梁川河川敷グラウンド拡大について ●

～内容～

国土交通省が防災訓練を行うために整備した場所の跡地利用として、河川敷グラウンドを拡幅することについて調査するもの。

～質疑～

問：拡幅して芝生を張る目的は何か。

答：防災関係の面から芝生を張る。

問：拡幅後のプランはあるのか。

答：野球、サッカー、グラウンドゴルフ、ランニングコースの設置を考えている。また、駐車場を一箇所にせず点々と作り、河川敷の中を車で移動できるように利便性に重点を置いて考えたい。

問：日陰対策、トイレの問題、水道の問題をどのように考えているか。

答：日陰対策としては子ども用のサッカーゴールにすだれ等を張って日陰を作る。トイレについては仮設トイレを増設し、掃除等を含め業者に管理委託する。水道については、飲み水ではなく手洗い用の水として水源地からポンプで引いて増設したい。

問：稼働率を上げる策はあるか。

答：日陰対策、トイレ、水道の問題を解消することはもちろんのこと、交通の便の解消ができればと思っている。競技については、少年野球用グラウンドは要望がある。指定管理者からも知恵を借りたい。

～自由討議での委員からの意見～

- サッカーや野球、グラウンドゴルフをする場所がなくて、子どもたちが困っているとか高齢者が困っているという問題があるのであれば、喫緊の課題として取り組めばいいが、紫外線対策も十分でない河川敷が本当に最適なのか疑問である。
- 他県や市外から大学や高校の合宿に結構利用している。サッカーに関して言えば、7月に行われる三渡海サッカー大会では選手、父兄合わせて延べ3,000人から4,000人ぐらいの人が訪れている。もっともっと市民及び市民外の方にも使用してもらえよう水道とトイレの問題を含め整備すべき。
- グラウンドゴルフについても、芝の上で行える場所ということで、グラウンドゴルフ協会から体育協会へ要望も出ている。
- 新たなところに投資するよりは、今の場所の利便性を高めることに投資し活用する方がいい。芝生を張ることで大水が出た後の修繕費用が不要ということでもあるし。
- 利便性を改善すれば、もっと稼働率が上がると思う。
- 紫外線の問題とかいろいろあるけど、サッカーや野球をする方の練習場所とか活動場所が少ないというのは事実なので、国が整備してくれた広大な場所を元に戻すよりは、ランニングコストを抑えお金のかからないような使い道を模索すべき。

～とりまとめ～

高梁川河川敷グラウンドの拡大については、既存のグラウンドや駐車場、トイレ等も含め全体的なレイアウトを見直し、利便性を向上させる整備とすること。